

16年度「特色ある教育支援プログラム（特色GP）」

# 大学・短大合わせ、 申請 534 件、採択 58 件！

申請率・採択率ともに“国立優位”。  
地域社会を核とした取組みの採択が目立つ

旺文社 教育情報センター  
平成 16 年 9 月

文部科学省（以下、文科省と略）はこのほど、国公私立大学・短大の特色ある優れた教育活動に予算を重点配分する「特色ある大学教育支援プログラム」（以下、「特色GP：Good Practice」）の平成 16 年度分として、534 件の申請に対し 58 件を採択した。

## 【1】大学教育の改善をめざす

### < 募集テーマは 5 種類 >

「特色GP」とは、大学教育の改善に助けとなる様々な取組みのうち、特色ある優れたものを選定し、重点的に財政支援を行うとともに、高等教育の活性化を促進する事業。

募集テーマは下記 5 テーマが例示された。

〔選定テーマ事例〕

主として総合的取組みに関するテーマ

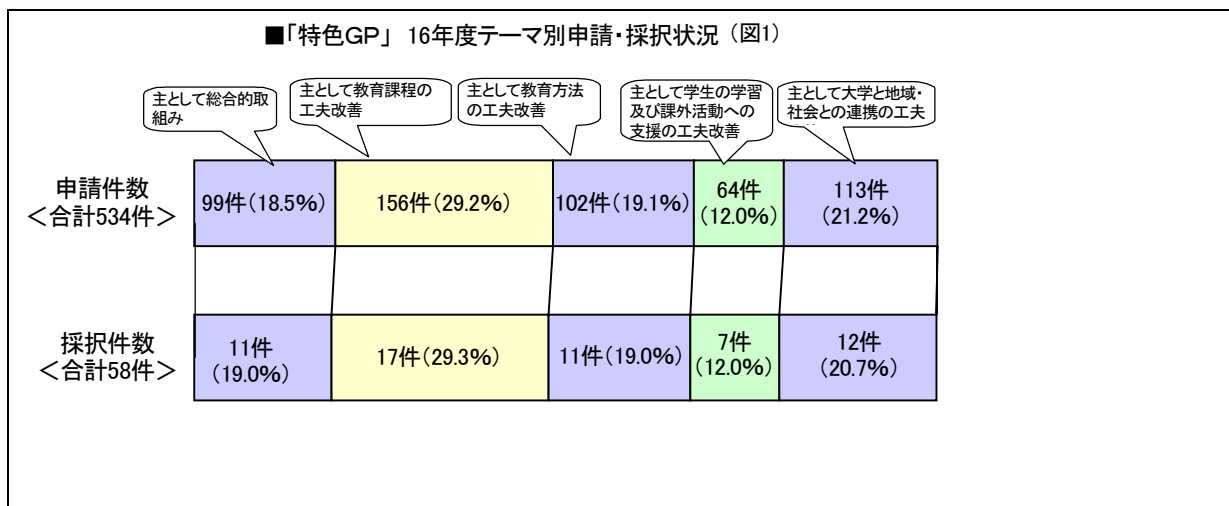
主として教育課程の工夫改善に関するテーマ

主として教育方法の工夫改善に関するテーマ

主として学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ

主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ

“世界的な研究教育拠点の形成を重点的に支援する”『21 世紀 COE (Center of Excellence: 卓越した拠点); 以下、COE と略』が大学院の博士課程の専攻等を対象にしているのに対し、「特色GP」は各大学・短大（学部・学科から大学院まで）の組織的な教育改善の取組みを対象としている。なお、申請は 1 校 1 件に限られるが、別途複数大学の共同申請も認められている。



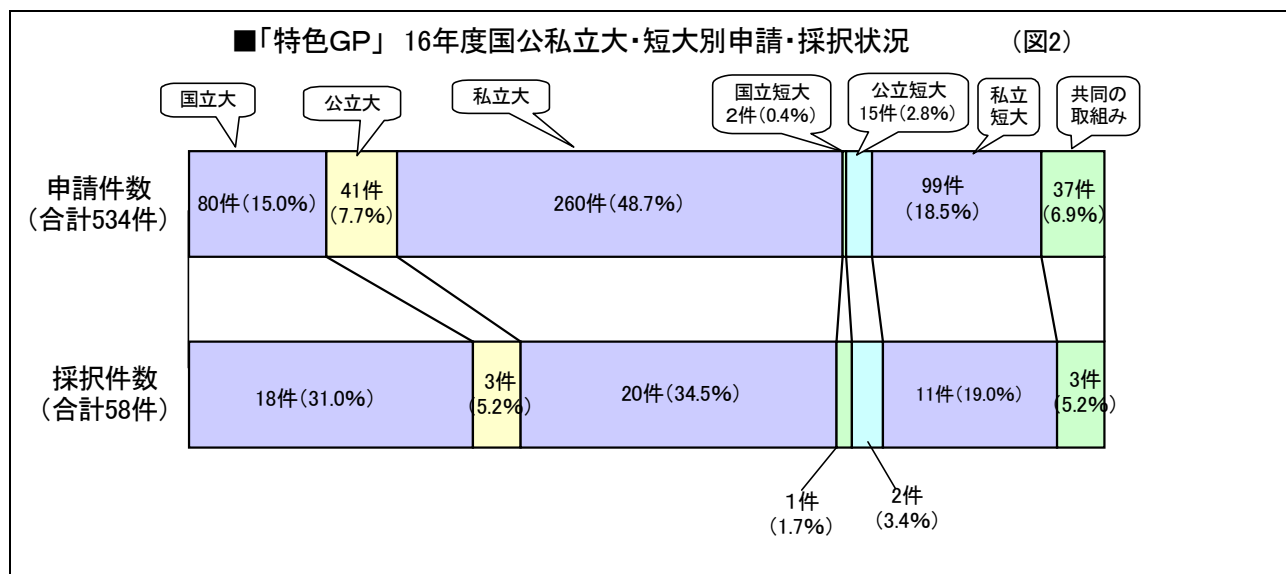
**< 2年目を迎えた「特色GP」 >**

「特色GP」は15年度からの文科省の新規事業で、今回の採択は2回目となる。15年度は国立学校特別会計や私立大学等経常費補助金など設置者別の既存経費の充当であったが、16年度は「大学改革推進等補助金」による経費措置がなされ、1件当たり上限で年間1,550万円が、最長4年間（短大は2～3年間）支援されることになる。

**【2】16年度の申請・採択状況**

**< 申請件数は15年度より19.6%減 >**

16年度の申請件数は15年度より130件（19.6%）減の534件であった。設置者別に見ると（図2を参照。共同の取組みを除く）、私立大が260件で最も多く全体の48.7%を占める。以下、私立短大99件（全体の18.5%）、国立大80件（同15.0%）、公立大41件（同7.7%）など。15年度と比較すると、私立大は78件（23.1%）減となっているのが目立つ。また国立大も13件（14.0%）減、公立大も5件（10.9%）減であった。

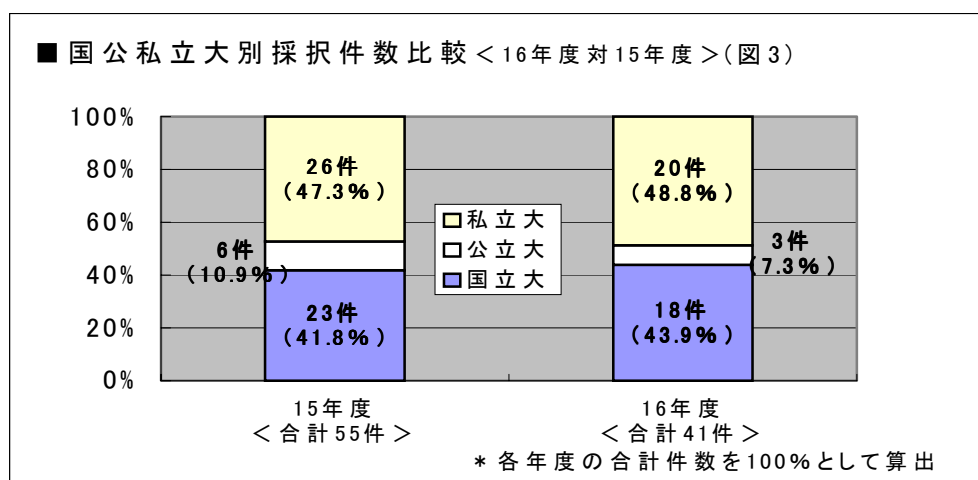


一方、申請状況を国公立大・短大別の「申請率(申請校数÷設置者別校数の総数)」で見ると、国立大96%・国立短大100%だったのに対し、公立大は56%、私立大は48%、以下、公立短大41%、私立短大25%が申請したに留まった。「特色GP」に対する、国立大と公立大との温度差が出たかっこうである。

**< 採択は「狭き門」に >**

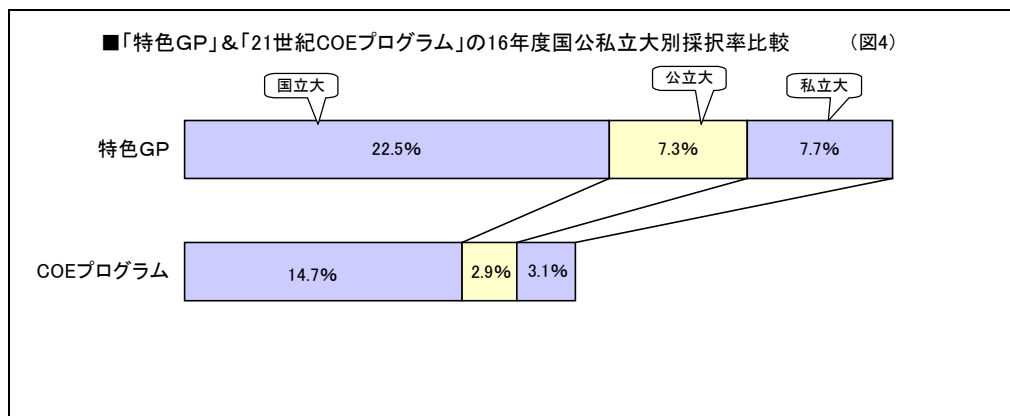
審査は文科省所管の財団法人大学基準協会が設置した委員会により、書面およびヒアリングにより実施された。申請 534 件のうち、125 件がヒアリングに進み、最終的に 58 件が選ばれた。採択率は 10.9%と 15 年度（採択率 12.0%）に比べ 1.1 ポイント低下し、「狭き門」となった。内訳は四年制大学が 41 件（全体の 70.7%）、短大が 14 件（同 24.1%）、共同の取組みが 3 件（同 5.2%）（表 1 参照）

国公立大別では、私立大が 20 件で最も多く、全体の 34.5%を占める。以下、国立大 18 件（同 31%）、私立短大 11 件（同 19.0%）と続く。また、四年制大学に限って、国公立の採択件数の割合を見ると、私立大が 48.8%（15 年度 47.3%）と、国立大 43.9%（同 41.8%）、公立大 7.3%（同 10.9%）を上回っている（図 3 を参照）。



### <採択率は国立優位>

しかし、各設置者別の採択率を見ると、国立大 22.5%（15 年度 24.7%）、同短大 50.0%（同 50.0%）、公立大 7.3%（同 13.0%）、同短大 13.3%（同 7.7%）、私立大 7.7%（同 7.7%）、同短大 11.1%（同 14.0%）となっている（表 1 参照）。国立大の採択率が公立大・私立大を大きく上回っており、COEと同様、国立大優位の結果となっている（図 4 を参照）。また、私立大は東京と関西圏以外はほとんど採択されず、地域的な偏りが見られる。



## 【3】テーマ別申請・採択状況

5 つのテーマそれぞれの申請および採択件数は、図 1 の通り。「教育課程の工夫改善」が申請・採択ともに最も多かった。全体としては、「地域医療」を始めとする“地域との連携強化”や、学生の自立・学習意欲を向上させるための“基礎教育の推進”などに、各大学・短大の創意工

夫が見て取れる。また、国立大は国立大学法人としての運営方針である「中期目標・計画」を反映した取組みも見られた。

学部系統別では、15年度に引き続いて、医療系学部や工学部の採択が多くなっている。  
各テーマ別の申請・採択状況は次の通り。

### 総合的取組み

【採択状況】申請 99 件中、11 件が採択された（採択率 11.1%）。大学 = 申請 71 件、採択 7 件。短大 = 申請 17 件、採択 2 件。共同の取組み（以下、「共同」と略） = 申請 11 件、採択 2 件。採択校と取組みの名称は、表 2 - を参照。

【特徴と事例】信州大 - 工の「環境マインドをもつ人材の養成」（平成 10 年以来、地域と連携した環境教育を展開し、環境に優しい社会の実現を目指す技術者を社会に輩出） / 岩手県大 - ソフトウェア情報の「高度専門教育と人間教育の一体化」（入学から卒業までの一貫した小講座制と複数学年の学生が同居するシステムを両輪にし、学生の人間的成長や協調性・社会性を高める） / 宮崎県看護大の「到達目標を共有する教育プログラム」（教育課程モデルと評価基準を教員・学生間で共有）など、既に成果をあげている取組みである。

また、海外での教育研究の交流の取組みとして、北大大学院 - 獣医学研究科の「国際獣医学教育協力推進プログラム」（大学院学生に対する現地教育の実施とアジア・アフリカ諸国の獣医学向上のための教育支援実施）や南山大 - 総合政策の「アジアを重視した国際教育の質的向上」（アジアからの質の高い留学生の受け入れと、在学生のアジアでの短期海外研修への派遣を調和させ、国際的に活躍する人材を育成）が採択された。

### 教育課程の工夫改善

【採択状況】申請 156 件中、17 件が採択された（採択率 10.9%）大学 = 申請 119 件、採択 13 件。短大 = 申請 29 件、採択 3 件。共同 = 申請 8 件、採択 1 件。採択校と取組みの名称は表 2 - を参照。

【特徴と事例】東海大 - 医では「専門的名医である前に、あらゆる病気や症状に人間的に対応できる“良医”を育成する」という教育目標の基に、地域医療への参画を取り入れた学外実習の積極的導入など、10 年以上にわたる組織的取組みが評価された。

また山口大の「TOEIC を活用した英語カリキュラム」（習熟度別クラス編成実施による学生のレベルアップ） / 熊本大の「全学共通情報基礎教育」 / 目白大 - 人文の「基礎学力養成計画」（日本語スキル達成などを中心とした基礎学力養成） / 高知工科大 - 工の「学生の多様化に対応した実践的技術者の育成」（新入生導入教育と数学の習熟度別クラス編成により学生の多様化に対応し長所を伸ばす）など、学生の学習意欲喚起や基礎学力の向上を図る取組みも多い。

なお、共同提案の「大学連携による新しい教養教育の創造」は「大学コンソーシアム京都」による単位互換制度の取組み。

### 教育方法の工夫改善

【採択状況】申請 102 件中、11 件が採択された（採択率 10.8%）。大学 = 申請 71 件、採択 8 件。短大 = 申請 28 件、採択 3 件。共同 = 申請 3 件、採択 0 件。採択校と取組みの名称は、表 2 - を参照。

【特徴と事例】教員の教育方法改善（名大、京大、東京医大）、校外実習など、地域社会との連携を推進した取組み（三重大 - 医、京都精華大、佛教大）も目立った。また、岡山大 - 工の「発想型技術者育成」（技術開発者には不可欠な、“読み、書く、話す”の「日本語能力」の向上を徹底的訓練）は、工学部での日本語教育ということで注目される。

### 学生の課外活動への支援の工夫改善

【採択状況】申請 64 件中、7 件が採択された（採択率 10.9%）。大学 = 申請 41 件、採択 5 件。短大 = 申請 15 件、採択 2 件。共同 = 申請 8 件、採択 0 件。採択校と取組みの名称は、表 2 -

を参照。

【特徴と事例】広島大の「ユニバーサルデザイン化」(教職員、学生が参加する組織的な障害学生支援) / 愛媛大の「お接待」(愛媛特有の「お接待」文化<巡礼者へのホスピタリティ>に学んだキャンパス内の支援活動)は、ともに学生・教職員が一体となって実践するボランティア活動を支援した取組み。

関西国際大、京都外語短大 - 英語は、学生の学習への動機づけ向上を目指したもの。

### 大学と地域・社会との連携の工夫改善

【採択状況】申請 113 件中、12 件が採択された(採択率 10.6%)。大学 = 申請 79 件、採択 8 件。短大 = 申請 27 件、採択 4 件。共同 = 申請 7 件、採択 0 件。採択校と取組みの名称は、表 2 - を参照。

【特徴と事例】高大連携、産学連携、生涯学習などを通し、地域貢献を図る取組み。長崎大 - 医の「現代版“赤ひげ”の育成」は、昭和 55 年から現在まで取組んできた離島における社会医学実習が認められたもの。

工学院大の「理科教室の展開」は、10 年にわたり教職員・学生が一体となり、地域の小中学生対象に理科教室を開催し、理科教育の普及を目指すとともに、学生の問題解決能力・デザイン能力等の向上を図る取組みで、その組織化・運営がみとめられたもの。例年 60 もの演示テーマを設定し、小中学生約 7,000 人が参加している。

大阪産業大 - 工の「21 世紀型ひとづくり共・育」は、“ものづくり”を基盤とする、入試から卒業まで一貫した教育システムを通して、“大学発ベンチャー”の日本での第 1 号を生み出すなどの実績と先進性が採択につながった。

### <連続採択は 12 校>

平成 15 年度に選定された取組みは応募対象外だが、テーマが異なれば 16 年度も連続の応募が可能となっている。その結果 15 年度に続いて採択された大学は、国立大 7 校(北大・東京外語大・岐阜大・名大・京大・長崎大・熊本大)、私立大 3 校(慶大・工学院大・中央大)、私立短大 2 校(産能短大・湘北短大)の 12 校だった。

## 【4】今後の課題

### <申請件数の減少は続く?>

「特色 G P」は、今後も 3 年間にわたり毎年選考が行われる予定で、今回選ばれなかった大学・短大は再応募が可能である。しかし、申請件数(単独申請のみ)を 15 年度から 16 年度の推移で見ると、国立大 93 件 80 件(14.0%減)、公立大 46 件 41 件(10.9%減)、私立大 338 件 260 件(23.1%減)と、立ちあがりから 2 年目で、全体で前年比 19.6%減の申請率となっている。原因としては、短期間での煩瑣な申請作業や C O E と比べての支給額の少なさ(C O E は最大で 1 件当たり 5 億円)などがあげられる。また、文科省が予算を重点配分するプログラムの種類が増加したこともあげられよう。

### <今後も増える支援プログラム>

16 年度は「特色 G P」の他に、各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に対応し設定したテーマの取組みを支援する「現代的教育ニーズ取組み支援プログラム(現代 G P)」がスタートしている。

また、「大学教育の国際化推進プログラム(仮称)」として、“海外先進教育研究実践支援”(大学教職員の教育研究能力の向上を目的とした海外派遣の取組みを支援)等や「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」が、既存の C O E とともに展開されている。

さらに、国公私立大の特色ある教員養成への財政支援事業「大学・大学院における教員養成推進プロジェクト」、また大学院版「特色 G P」として『“魅力ある大学院教育”イニシアチブ

〔仮称〕』などが17年度にスタートする予定である。

こうした種々のプログラムに対し、大学が個々の独自性のポイントをどこに置き改革を推進していくかによって、今後の「特色GP」に対する大学の取組姿勢が変わってこよう。

次葉に表 および表 - 1 ~ - 5 を掲載。

■「特色GP」16年度申請・採択状況一覧

(表1)

区分	主として総合的取組に関するテーマ		主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		主として学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ		主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		その他のテーマ		合計		
	大学	短大	大学	短大	大学	短大	大学	短大	大学	短大	大学	短大	大学	短大	
国立	申請件数	17	0	22	0	16	1	9	0	16	1	0	0	80	2
	採択件数	3	0	5	0	4	1	3	0	3	0	0	0	18	1
	採択率	17.6%	—	22.7%	—	25.0%	100.0%	33.3%	—	18.8%	—	—	—	22.5%	50.0%
公立	申請件数	12	1	10	1	6	7	2	0	11	6	0	0	41	15
	採択件数	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3	2
	採択率	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	—	0.0%	33.3%	—	—	7.3%	13.3%
私立	申請件数	42	16	87	28	49	20	30	15	52	20	0	0	260	99
	採択件数	1	2	8	3	4	2	2	2	5	2	0	0	20	11
	採択率	2.4%	12.5%	9.2%	10.7%	8.2%	10.0%	6.7%	13.3%	9.6%	10.0%	—	—	7.7%	11.1%
小計	申請件数	71	17	119	29	71	28	41	15	79	27	0	0	381	116
	採択件数	7	2	13	3	8	3	5	2	8	4	0	0	41	14
	採択率	9.9%	11.8%	10.9%	10.3%	11.3%	10.7%	12.2%	13.3%	10.1%	14.8%	—	—	10.8%	12.1%
共同の取組み	申請件数	11	—	8	—	3	—	8	—	7	—	0	—	37	—
	採択件数	2	—	1	—	0	—	0	—	0	—	0	—	3	—
	採択率	18.2%	—	12.5%	—	0.0%	—	0.0%	—	0.0%	—	—	—	8.1%	—
総計	申請件数	99	—	156	—	102	—	64	—	113	—	0	—	534	—
	採択件数	11	—	17	—	11	—	7	—	12	—	0	—	58	—
	採択率	11.1%	—	10.9%	—	10.8%	—	10.9%	—	10.6%	—	—	—	10.9%	—

注1. 採択率(%) = 採択件数 ÷ 申請件数 × 100

◆テーマ別採択状況①<総合的取組に関するテーマ; 採択件数11件>

(表2 - )

大学・短大名	設置	採択取組み名	申請単位
北大	国立	国際獣医学教育協力推進プログラム - アジア・アフリカ諸国を視野において -	大学院獣医学研究科
信州大	国立	環境マインドをもつ人材の養成 - 環境調和型技術者の育成プログラムを通して -	工学部
静岡大	国立	多角的評価で磨く文工融合型情報学教育	情報学部
岩手県大	公立	高度専門教育と人間教育の一体化 ～一年次からの講座配属を行う『岩手県立大学方式』の実践～	ソフトウェア情報学部
茨城県医療大	公立	自己発展性を備えた医療専門職業人の育成	全学
宮崎県看護大	公立	到達目標を共有する教育プログラムの取組み	全学
南山大	私立	アジアを重視した国際教育の質的向上	総合政策学部
国際学院埼玉短大	私立	短期大学における自立創造力育成プログラム	全学
藤田保健衛生大短大	私立	実践力と創造力を体得する学際的卒業研究	全学
東京工業大・北大・東北大・東大・名大・阪大・九大	国立	コアリッションによる工学教育の相乗的改革	共同
阪大・上智大	国立	大学対抗交渉コンペティション	共同

◆テーマ別採択状況②＜教育課程の工夫改善に関するテーマ；採択件数17件＞

(表2-)

大学・短大名	設置	採択取組み名	申請単位
群馬大	国立	良医養成のための体験的・実践的専門前教育	医学部
阪大	国立	進化する理学教育プログラム	理学部
山口大	国立	TOEICを活用した英語カリキュラム：教育の水準保証と学習支援	全学
福岡教育大	国立	障害児支援経験を通じた教員養成プログラム - 豊かな人間性と高い指導力を目指して -	教育学部
熊本大	国立	学習と社会に扉を開く全学共通情報基礎教育	全学
北星学園大	私立	実習における事前・事後指導の組織的な実施	社会福祉学部
慶大	私立	自立と創発の未来先導理工学教育	理工学部
中央大	私立	実学理念に基づく高大接続教育の展開	商学部
津田塾大	私立	発展し続ける英語教育プログラム - ボーダレス時代の多様なニーズに応えて -	全学
東海大	私立	地域医療と医学教育の連携 - “良医”の育成	医学部
目白大	私立	教養教育における基礎学力養成計画『連携』	人文学部
名城大	私立	医学教育との連携による臨床薬剤師教育	大学院薬学専攻科
高知工科大	私立	学生の多様化に対応した実践的技術者の育成 ～生徒から学生、そして社会人への成長をサポート～	工学部
北海道浅井学園大短大部	私立	人間総合学科における新教育課程の実践 - 履修相談室と履修記録ノートによる総合支援 -	人間総合学科
山形短大	私立	実習を核とした総合的カリキュラムの構築	幼児教育科
金城大短大部	私立	キャンパス内におけるキャリア教育 - 意識変容への挑戦 -	ビジネス実務学科
立命館大他42大学・短大	私立	大学連携による新しい教養教育の創造 - 京都地域における単位互換制度 -	共同

※共同の取組み：大学コンソーシアム京都による申請

◆テーマ別採択状況③＜教育方法の工夫改善に関するテーマ；採択件数11件＞

表2-

大学・短大名	設置	採択取組み名	申請単位
名大	国立	教員の自発的な授業改善の促進・支援 - 授業支援ツールを活用した授業デザイン力の形成 -	全学
三重大	国立	社会のニーズに即した人間性豊かな医師養成 - 地域社会を学びの場にして -	医学部
京大	国立	相互研修型FDの組織化による教育改善	全学
岡山大	国立	日本語力の徹底訓練による発想型技術者育成	工学部
東京医大	私立	医学生を対象とした臨床能力評価システム - Advanced OSCEとFD -	全学
京都精華大	私立	自立した学習者による社会貢献の実践教育 ～環境マネジメントシステムの構築を通じて～	全学
佛教大	私立	学生の人間力を育む福祉実習教育の開発	全学
帝塚山大	私立	学生の自立性を高める教育学習支援システム - TIESライブ塾とサイバーチューターを活用して -	全学
高岡短大	私立	学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト	全学
湘北短大	私立	国際交流体験教育の多面的展開 - 実践的コミュニケーション能力育成プログラム -	全学
鹿児島純心女子短大	私立	モチベーションを高める体験型英語教育 - 全寮制と海外研修を活用する実践的カリキュラム -	英語科

◆テーマ別採択状況④＜学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ；採択件数7件＞ (表2-)

大学・短大名	設置	採択取組み名	申請単位
東京外語大	国立	生きた言語修得のための26言語・語劇支援	外国語学部
広島大	国立	高等教育のユニバーサルデザイン化 - 総合大学における障害学生就学支援 -	全学
愛媛大	国立	「お接待」の心に学ぶキャンパス・ボランティア	全学
同志社大	私立	大学コミュニティーの創造 - コミュニケーション・デバインドの克服 -	全学
関西国際大	私立	大学のユニバーサル化と学習支援の取組み	全学
産能短大	私立	タテよこ交流に始まる学内サービス学習支援	能率科
京都外語短大	私立	入学者の質的变化に対応する学習支援 - 学びの環境づくり -	英語科

## ◆テーマ別採択状況⑤&lt;大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ；採択件数12件&gt;

(表2- )

大学・短大名	設置	採択取組み名	申請単位
一橋大	国立	人間環境キーステーションとまちづくり授業	全学
岐阜大	国立	地域・大学共生型教師教育システム	教育学部
長崎大	国立	地域と連携した実践型医学教育プログラム ~現代版「赤ひげ」の育成を目指した長崎県五島列島における包括的保健・全人的医療教育の実践~	医学部
共立薬大	私立	医療人育成のための生涯学習支援システム	全学
工学院大	私立	理科教室の展開と支援学生への教育波及効果 - 地域貢献活動を通じての学生のデザイン能力等の育成を目指した工学教育の実践 -	全学
女子美大	私立	美大におけるサービス・ラーニングの実践 - アートを通じた大学と医療・福祉施設との連携	全学
大阪産業大	私立	大学と地域で築く21世紀型ひとづくり共・育 東大阪中小企業ものづくりネットワークと連携したアントレプレナー型エンジニア育成	工学部
大阪商大	私立	地域や高校と連携した起業教育・起業家育成	全学
新見公立短大	公立	地域と創る「にいまこどもフェスタ」	幼児教育学科
大分県立芸術文化短大	公立	多様な演奏会による地域交流教育の工夫改善	音楽科
上智短大	私立	地域の外国籍市民への学習支援活動の推進 - 学生主体の家庭教師ボランティアの展開モデル -	全学
久留米信愛女学院短大	私立	地方都市における地域参画型短期大学教育	全学